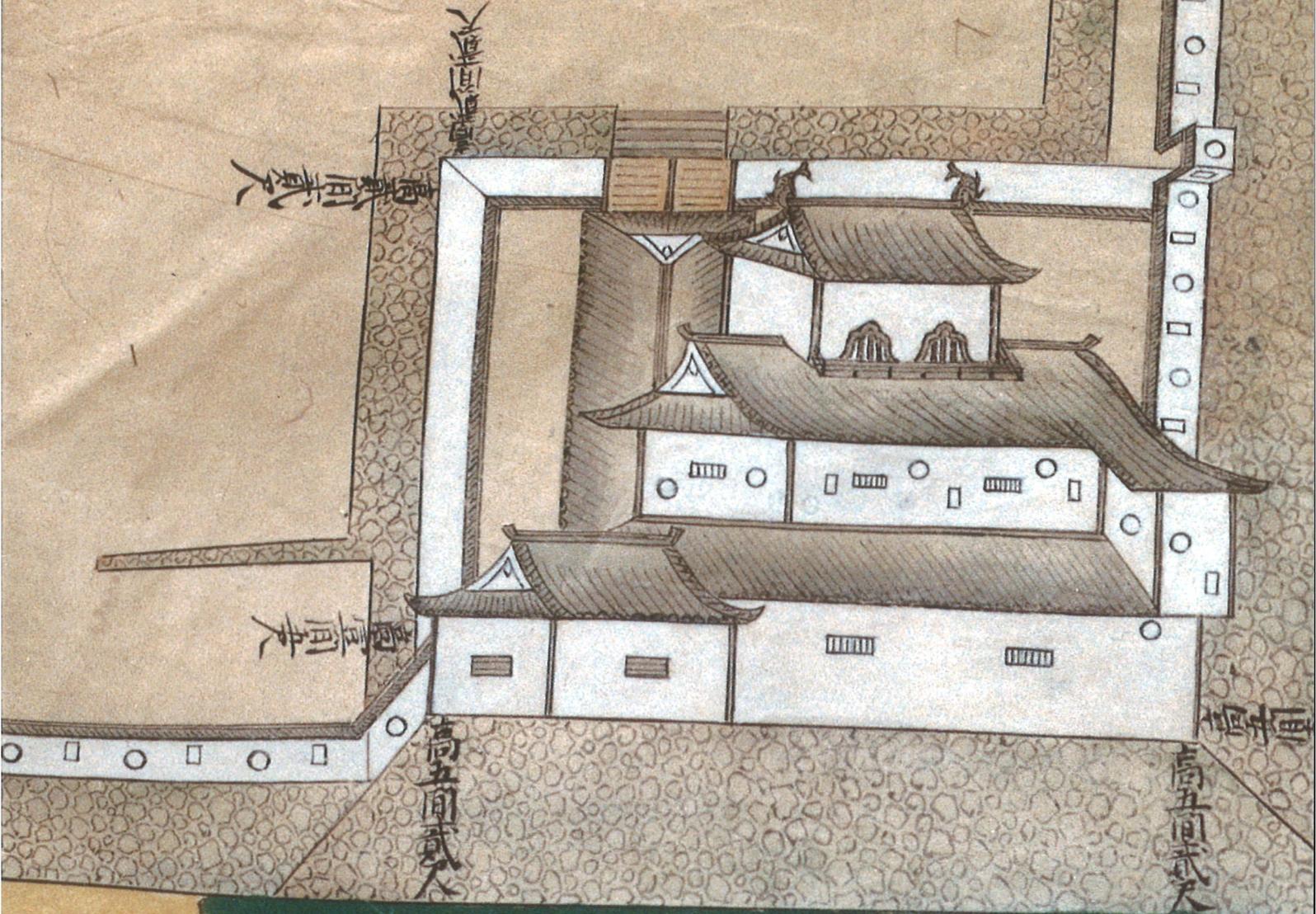


白石市指定文化財

# 白石城跡

—片倉小十郎の城 白石城—



白石市歴史文化を活用した地域活性化実行委員会  
白石市教育委員会

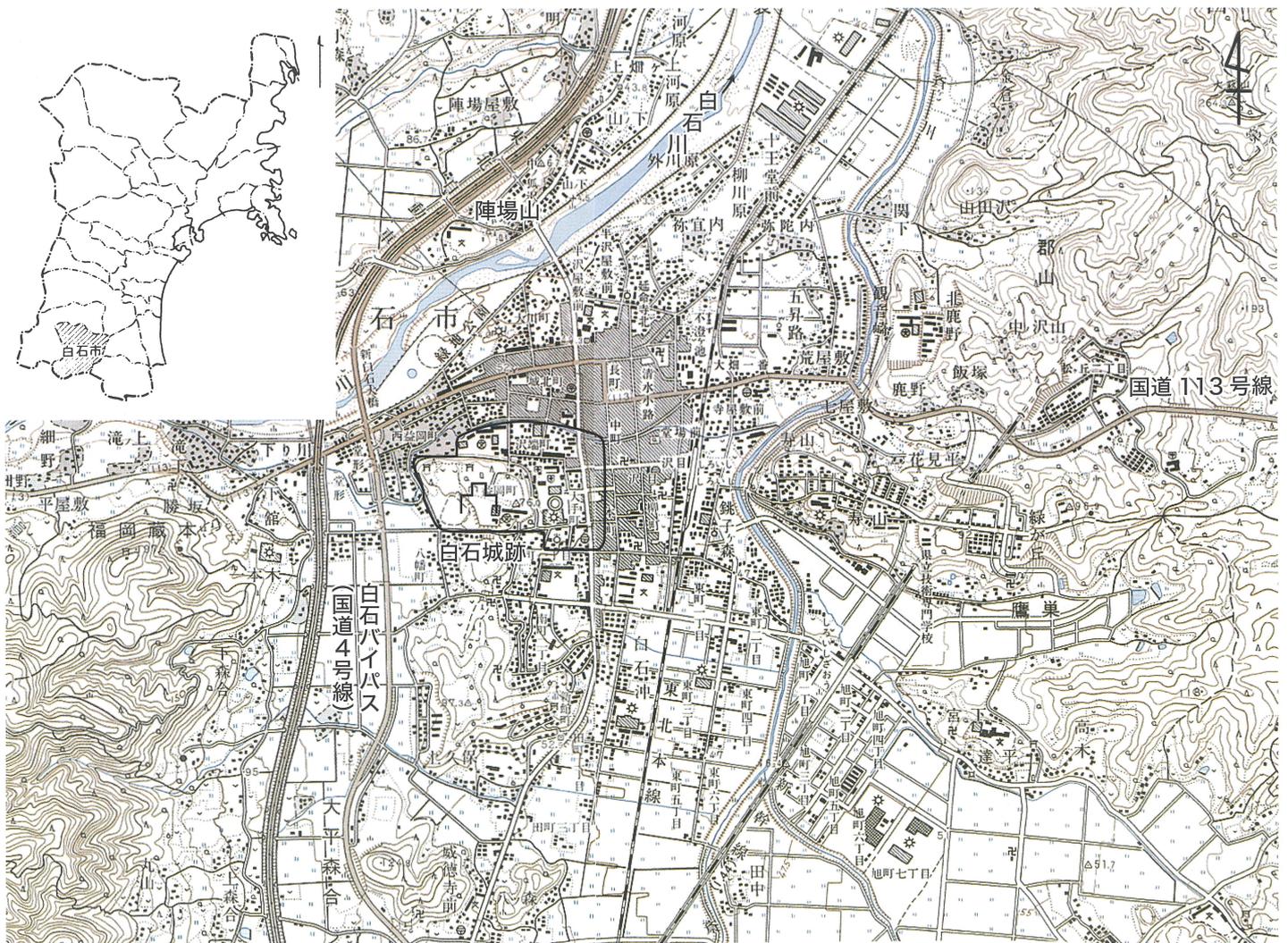
## 白石市と白石城跡の位置

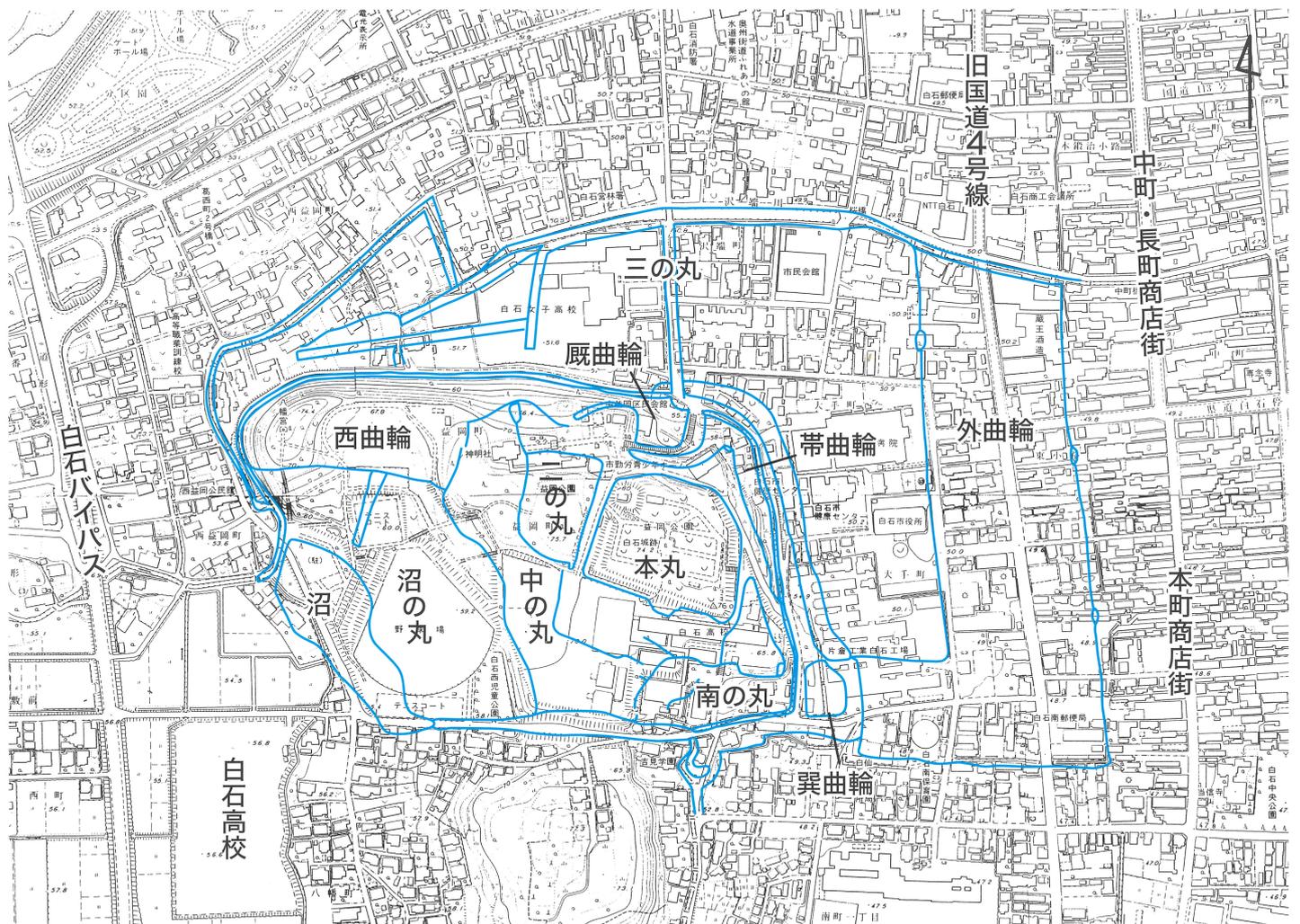
白石城跡が位置する宮城県白石市は宮城県南部の市で、福島県との県境で蔵王連峰の麓にあります。

現在は国道4号線、東北新幹線、東北自動車道が市内中心部を南北に通過しています。また、山形県米沢市、南陽市、高島町と福島県沿岸の相馬市を結ぶ国道113号線は、市内中心部を東西に通過しています。

今から約150～400年前の江戸時代には、現在の白石市中心部を奥州街道が南北を通り、日本海側に通じる羽州街道は、市中心部の西側の山中を通過していました。各街道は江戸と各地を往復する参勤交代の大名が通過していました。

現代の白石市は県境の市ですが、江戸時代も白石までが仙台藩領であり、藩境の城下町でもありました。





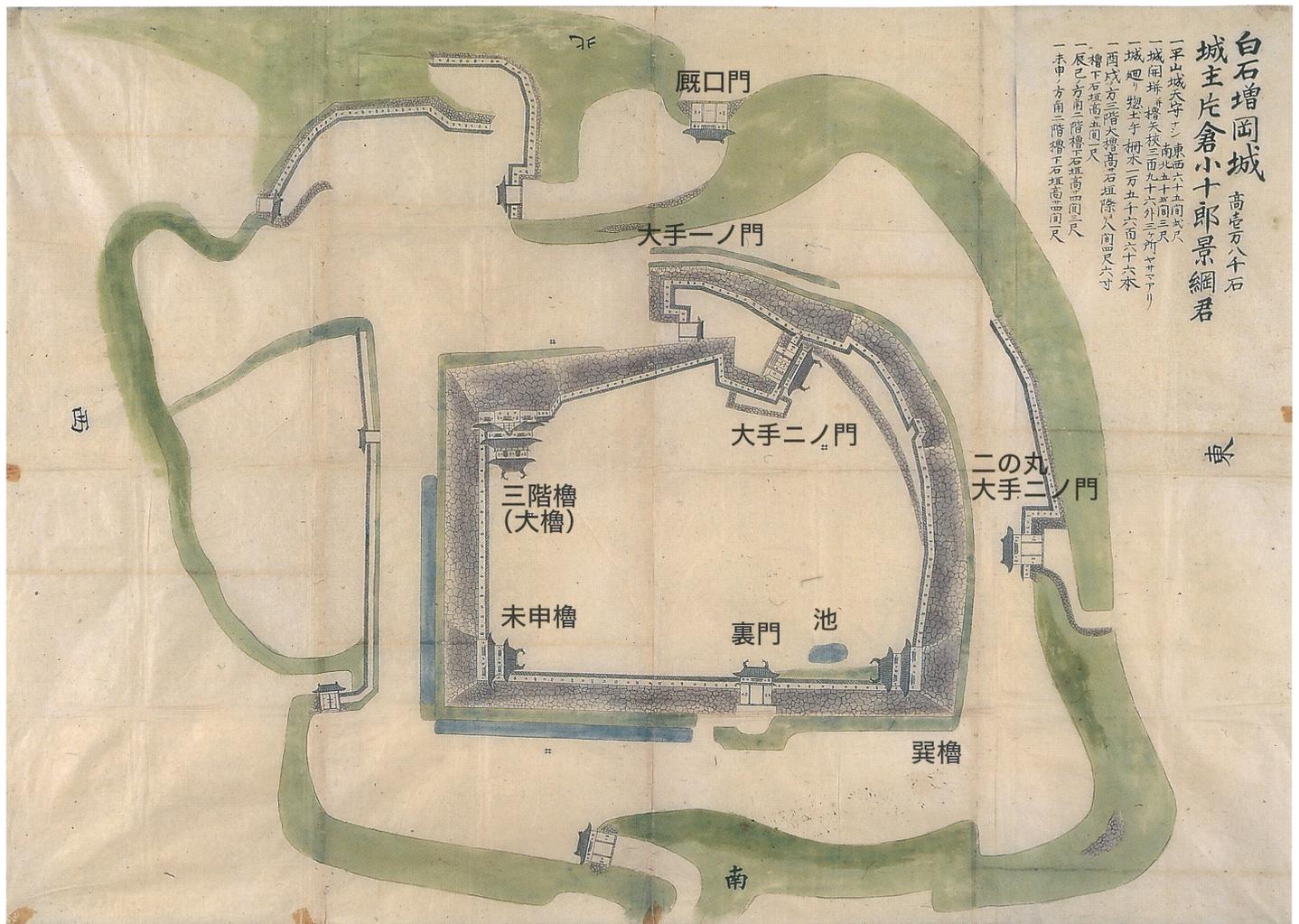
## 城下町の面影を色濃く残す街並み

上の図は、現代の白石市都市計画図と安政3年（1856年）に描かれた絵図を重ね合わせたものです。

白石城と城下町がいつ建設されたかは、記録が十分に残されていないことから、詳細は不明ですが、戦国時代の終わり頃には、小規模な城下町が作られていたようです。その後、江戸時代に大規模に整備されたと考えられています。

かつての白石城は、東西750m、南北480mの範囲になります。面積では約30万平方メートルにもなります。城はいくつかの区分けがされていて、本丸、二の丸、中の丸、南の丸、沼の丸、三の丸、西曲輪、<sup>うまや</sup> 厩曲輪、<sup>おび</sup> 帯曲輪、<sup>たつみ</sup> 巽曲輪、外曲輪の計、六丸五曲輪があります。

本丸、二の丸、西曲輪はかつての形を比較的良く残しています。三の丸、外曲輪は学校、住宅、公共施設、公園が建設され、昔の面影を偲ぶことはできなくなっています。白石城の東端は旧国道4号線と、中町・長町商店街～本町商店街通りのちょうど中間の場所になります。



## 城内のようす

白石城の本丸の様子を見てみたいと思います。上の絵図は、市内の個人宅に保存されていた絵図で、本丸の櫓、門、白壁の塀、池、石垣、本丸以外の門、塀が記されています。

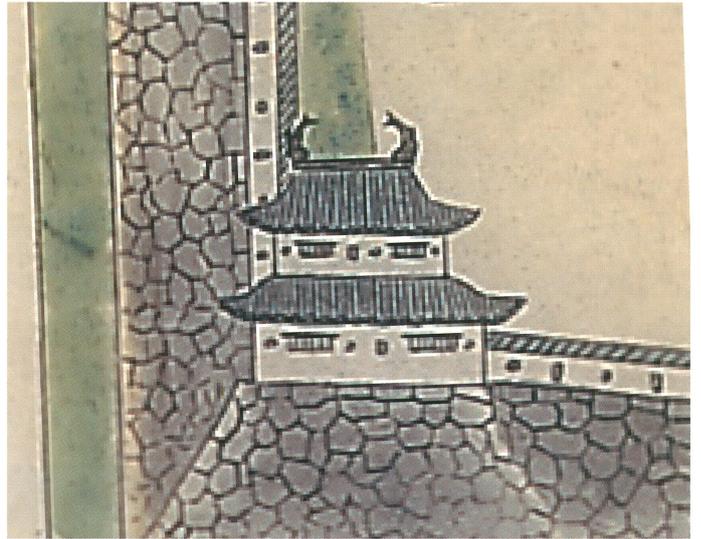
本丸は東西 120 m、南北 110 m ほどの大きさです。本丸の北側には、三階建ての櫓（三階櫓）とそれに続く白壁の塀、大手一ノ門、二ノ門があります。南東隅（たつみ巽櫓）と南西隅（ひつじさる未申櫓）には、二階建ての櫓がそれぞれ建っています。その中間には、裏門があり、現在も、現地で土手が切れ、跡地が分かるようになっています。

現在では、地表から確認できないのですが、本丸内には池もありました。未申櫓の下には堀があったようです。

平成 7 年、本丸の北側部分の三階櫓、大手門が復元公開され、多くの人に親しまれています。



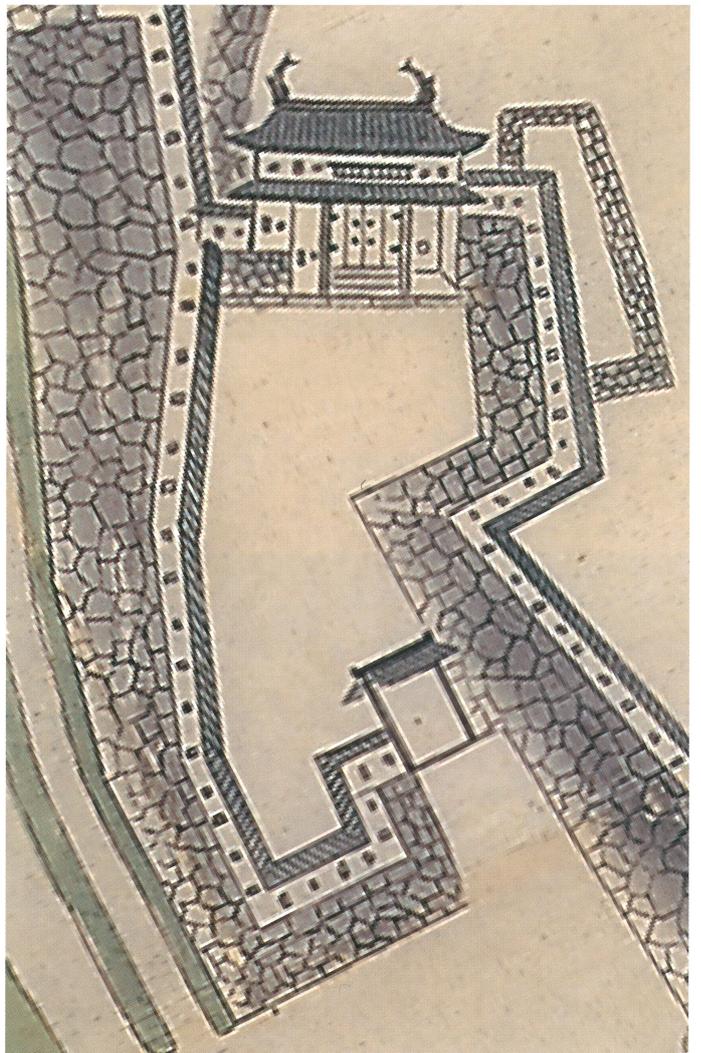
三階櫓 (大櫓)



未申櫓



異櫓



大手一ノ門、二ノ門



裏門

## 発掘された白石城

江戸時代に重要な拠点として機能していた白石城は、明治時代に入り、順次、建物、石垣が解体されたり、移築されました。その後、公園となり、戦時中は、軍の防空監視所も一時、設置されました。

昭和時代の終わり頃には、大きい樹木も育ち、市民公園、桜の名所として親しまれていました。いろいろな条件が整い、平成2年から白石城跡の発掘調査が開始され、白石城復元事業が始まりました。

発掘調査では、三階櫓のあった箇所からは異なる3つの時代の建物跡が発見されました。大手門でも門の礎石、石垣や大量の瓦が発掘されました。発見された建物跡等は、江戸時代の絵図と一致し、絵図が正確に描かれていたことがわかりました。



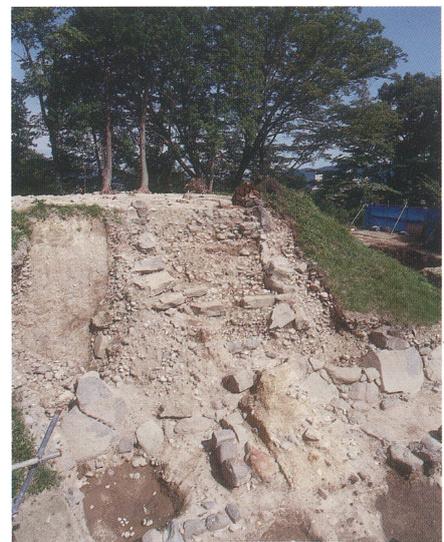
発掘された天守台（南東上空から撮影）

本丸の北西隅で最も標高の高い箇所に天守台が残っていました。地表から20cmほど発掘をしたところ、建物の礎石などがたくさん発見されました。天守台を取り囲む石垣は、一番下の箇所しか残っていませんでした。



天守台（東上空から撮影）

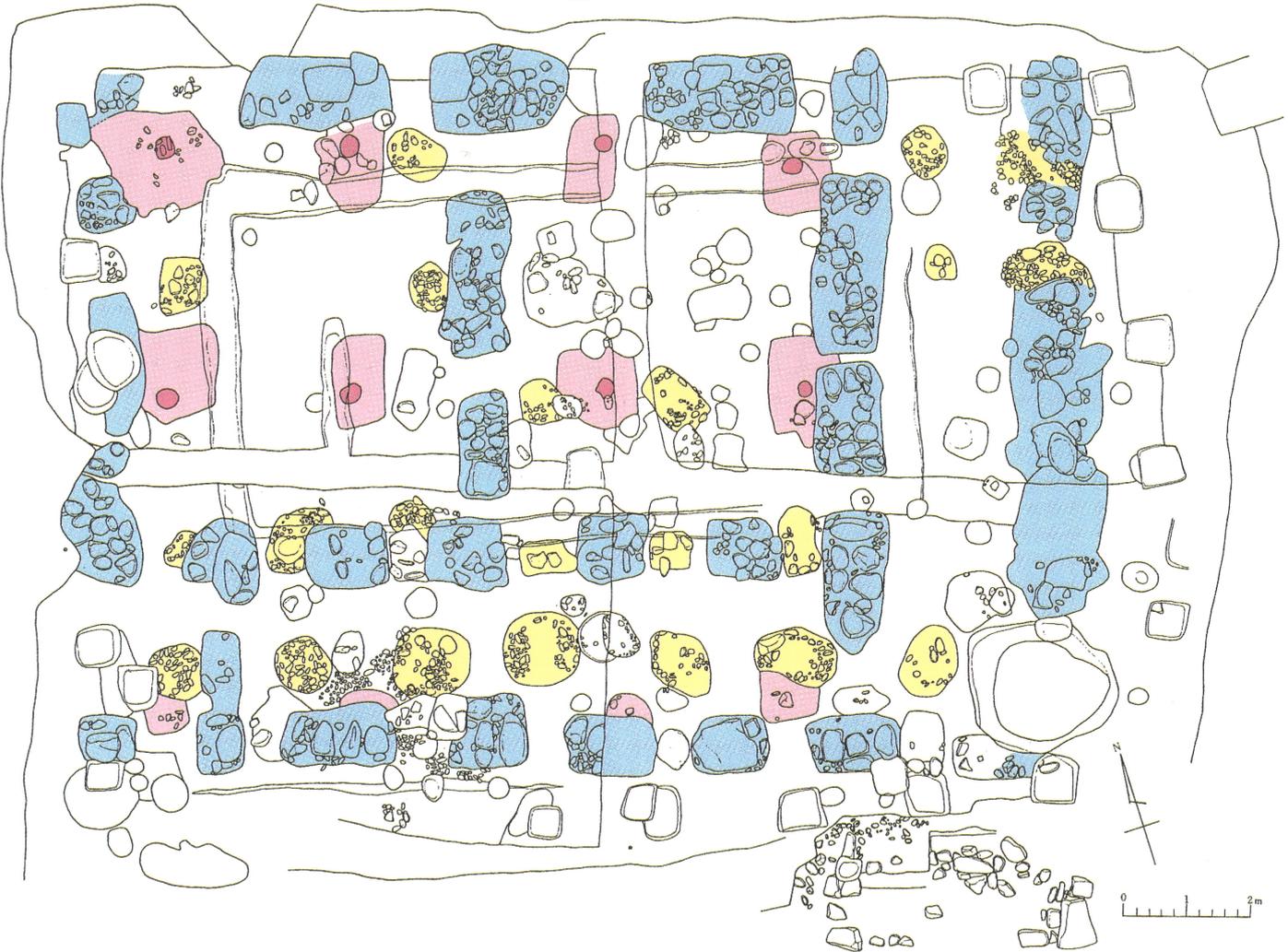
写真から、規則的に並んだ礎石の大きい石が確認できます。



天守台への階段跡

発掘調査で天守台の南斜面から、石で作られた階段が発見されました。残りは決して良くなかったのですが、斜面の東寄りに石が直線的に並んでいるのが見えます。この階段は、白石城絵図にも描かれています。

■ 掘立柱の建物跡   
 ■ 礎石を持つ建物跡   
 ■ 大石を据え込んだ建物跡



### 三階櫓跡で発見された建物跡

上の図は、三階櫓跡で発掘された建物跡の図面です。カラーで色分けしてありますが、ピンク色で示した掘立柱<sup>ほったてばしらたてものあと</sup>建物跡が最も古いもので、その次に黄色の礎石を持つ建物跡、最も新しいのは、青色に塗った箇所で大石を据え込んだ建物跡となっています。同じ場所で、繰り返し建て替えが行われたため、古い時代の建物跡は、より新しい時代の建物跡によって壊され、最初の形を留めているものは少なくなっています。それぞれの時代に建物の大きさ、基礎工事工法に変化があったことが分かります。



大手一ノ門跡（北から撮影）

大手一ノ門跡は、残りが悪かったのですが、石垣の最下部、小さい石を敷き詰めた様子が見えます。基礎部分は長方形の形をしています。



大手二ノ門跡（北から撮影）

大手二ノ門では、土塁に、横に直線状に並べた石、石の階段が発見されました。復元された白石城大手二ノ門裏にも石の階段が復元されています。



土塁の断面（北から撮影）

三階櫓から未申櫓に延びる土塁の断面写真です。よく見ると、茶褐色、白色の土の途中に色が濃くなって横に延びるている地層があります。これは、この地層の箇所が過去に地表となった時に、土が褐色化した箇所です。現在、眼にする土塁は、何度かの造成工事によって、盛土が繰り返されたことを示しています。



三階櫓跡  
掘立柱建物跡の断面



礎石を持つ建物跡の断面



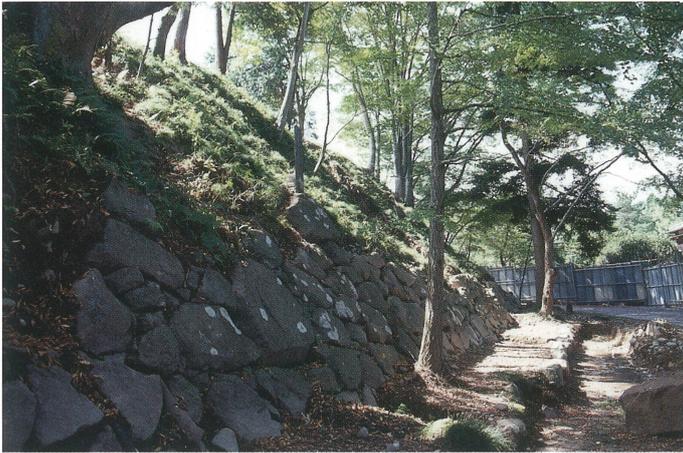
大石を据え込んだ建物跡の断面



## 白石城の石垣を紹介します。

### 三階櫓跡北側の石垣（北から撮影）

白石城の石垣は明治時代に取り外され、建物や白石大橋の基礎石として転用されました。残りのよい箇所でも4～5段しか残っていませんでしたが、野面積みの石垣が発見されました。



### 三階櫓跡北側の石垣（北東から撮影）

野面積み石垣です。自然にある石をほとんど加工することなく積んでいきます。平らな面が外側になるようにして積んであります。



### 三階櫓跡西側の石垣（西から撮影）

ここも野面積み石垣です。大きい石と大きい石の間は小さい石が取り囲むように積まれています。また、一見、安定が悪そうですが、比較的大きい石が最下段ではなく、石垣の上方に積まれています。写真の左側の石垣では、横に大きい石が最も高い箇所にも積まれています。



### 本丸東側の石垣（北西から撮影）

本丸を取り囲む石垣の一部で、白石城歴史探訪ミュージアムの前にあります。

石垣の平面形はカーブを描いて築かれていますが、石の積み方が左側と右側で大きく異なります。左側は野面積みですが、右側は加工し、整形した石をきれいに積んだ積み方になっています。右側は江戸時代の記録によると、度々崩れて、修理したとされています。野面積みよりも新しい時代の技法で積まれたことから、積み方が異なったものです。



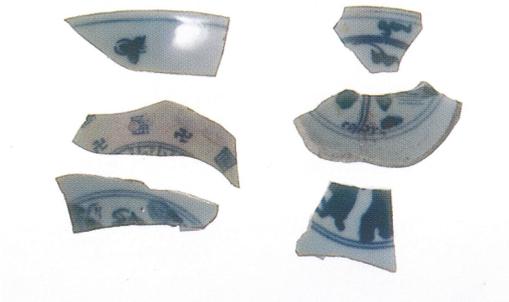
### 発掘された陶器

天目茶碗の破片が発見されました。製作されたのは、15～16世紀です。鉄釉という上薬が掛けられています。



### 「文政…八」とへら描きされた鬼瓦破片

白石城からは大量の瓦片が発見されましたが、文字が記してあるものは極めて少ないです。文政2年に白石城が全焼し、再建しましたが、再建時の瓦に、記念として、文字を描いたものと思われる。



### 発掘された磁器

中国大陸で16世紀～17世紀前半に製作された磁器です。染付で文様が描かれています。当時は貴重品でした。



### 板碑

全国的に鎌倉～室町時代にかけて、板碑と呼ばれる供養碑が建立されます。発掘では1基発見されました。長さ85cm、幅45cmの大きさで、上部に梵字で「バン」が彫られています。

### 瓦の紋様



軒丸瓦(縦三引両紋) 軒丸瓦(巴連珠紋) 軒棧瓦(九曜紋と草花紋)



### アメリカ軍用機模型

白石城跡の天守台は、太平洋戦争時に防空監視所として利用されていました。軍関係者が詰め、上空を通過するアメリカ軍機を識別していたようです。その時に用いられた識別用模型も発掘されました。

# 知ってる？ 白石城！

## 戦国時代 ～片倉氏入城まで～

戦国時代、全国には4万から5万の城館が存在しました。今の白石市内にも**50**箇所あまりの中世城館が確認されていますが、その大部分が戦国時代のものと考えられます。

豊臣秀吉は、自己の権力を全国に広める過程で、戦国大名同士が勝手に戦いをすることを禁じ、そのための措置の一つとして、秀吉に従った大名に対して城館の整理を命じ、大名の居城と領内支配のための重要拠点となる城（支城）を除いて、他の城の廃城を命じました（城割＝しろわり）。

### 蒲生領の頃

天正18年（1590）、豊臣秀吉の勢力が奥羽に及び、翌19年にかけて大名の再配置が行われた結果、それまで伊達政宗の所領であった刈田郡は蒲生氏郷（かものうじさと）の所領となりました。その際に刈田郡内の城館の整理が行われ、白石城と若干の城を除く大部分の城館は廃止されたと推定されます。

蒲生氏郷は重臣であった蒲生郷成（さとなり）を白石城の城代に任じて刈田郡の支配に当たらせると同時に、石垣を築くなど、大規模な白石城の改修を行いました。この結果、白石城は戦国城館から近世城館として大きな飛躍を遂げたと考えられます。

### 上杉領の頃

慶長3年（1598）、蒲生氏は下野国宇都宮に転封となり、刈田郡は上杉景勝（うえすぎかげかつ）の所領とされ、白石城の城代として甘糟清長（あまかすきよなが）が任じられました。

### 伊達 VS 上杉

慶長5年（1600）、徳川家康と対立した上杉景勝と、徳川方についた伊達政宗の間で刈田郡をめぐって争奪戦が繰り広げられ、白石城は7月に伊達勢の攻撃を受けて落城しました。

### 片倉小十郎の城に

慶長7年（1602）、伊達政宗は片倉小十郎景綱を白石城主に任じ、以後、江戸時代を通じて片倉氏が白石城主としての地位を保ちました。

# 江戸時代 一国一城令の謎！？

当初、徳川氏も諸大名の城郭について豊臣政権と同様の政策を採りましたが、大坂夏の陣以後、各大名の居城以外の城を原則として禁止しました（元和の<sup>げんな</sup>一国一城令）。これによって西日本を中心に各大名の所領内に存在した支城の廃城が実行され、城郭の数は大幅に減少しました。

元和の一国一城令は主に西日本を対象としたものでしたが、東日本でも城郭の削減が図られました。ただし、西日本ほど徹底したものではなく、例えば奥羽の諸大名の場合、下記のように大名居城のほかにも幾つかの城が存続しました。

仙台藩（伊達氏）	仙台城（居城）、白石城
盛岡藩（南部氏）	盛岡城（居城）、花巻城
秋田藩（佐竹氏）	久保田城（居城）、大館城、横手城
米沢藩（上杉氏）	米沢城（居城）、大森城、梁川城
山形藩（最上氏）	山形城、上山城、天童城、東根城、寒河江城、本荘城など多数
会津藩（松平氏）	若松城（居城）、猪苗代城

仙台藩では、伊達氏の居城である仙台城のほかに、白石城も「城」として存続しました。その他にも、支城となっていた岩出山城、角田城、佐沼城、水沢城など約20箇所の城も存続させました。しかし、貞享年間（1780年代半ば）に幕府の意向を受けて、仙台城と白石城を「城」、岩出山城、角田城など約20箇所を「要害」と区別しました。

白石城が後に「要害」となる仙台藩内の諸城と一線を画されて「城」として格付けされた理由は明確には分かっていません。その理由としては、以下のことが考えられます。

- ①片倉景綱が豊臣政権下および初期江戸幕府政権において、伊達氏の家臣でありながら同時に大名としての格付けを行われていた。（伏見や江戸に独自の屋敷を拝領したという伝承、記録）
- ②片倉氏は仙台藩の家格制のなかでのランキングは20位程度であったが、江戸幕府や諸大名からは仙台藩重臣の筆頭という認識をされていた。  
※伊達騒動や幕末など仙台藩にとって政治的に困難な状況の時に、片倉氏が伊達氏重臣の代表として幕府や朝廷との折衝に当たった事例が確認される
- ③白石城が存在する刈田郡は、政宗が徳川氏から恩賞として与えられた場所であり、他の伊達領（仙台藩領）とは扱いが違っていた可能性がある。

※いわゆる「百万石のお墨付」では、刈田郡などは「（政宗の）御家老衆（＝重臣）」への恩賞として与える、ということが明記されている。結果的に、この「お墨付」によって与えられた刈田郡は「御家老衆」の筆頭であった片倉景綱に与えられた。このことが刈田郡を支配するための支城であった白石城を特別扱いした根拠の一つとなった可能性が高い。

「要害」の制度が確立する以前でも、白石城は後に要害となる諸城とは区別され、仙台城に準じた扱いを受けた可能性が高いのです。

↑正保2年（1645）に幕府が諸大名に対して居城の絵図の提出を命じた際に、仙台藩からは仙台城と共に白石城の絵図が提出され、岩出山城など後に「要害」と認定される城については絵図の提出が行われませんでした。



**二の丸大手二ノ門**（現在は白石市の当信寺山門）  
白石城の二ノ丸にあった門で、現在の白石城歴史探訪ミュージアムの南方の坂道の所にありました。



**厩口門**（現在は白石市の延命寺山門）  
厩口にあった門で、現在の益岡町の神明社の大きい鳥居の近くにあります。  
瓦は近年、葺き替えました。



**城門**（現在は名取市の耕龍寺山門）  
現在、宮城県名取市の耕龍寺に保存されている門です。白石城のどこの門であったのかは、不明となっています。屋根は葺き替えられましたが、古い瓦も保存されています。



**白石城の鐘**（福島県桑折町伝来寺の鐘）  
もともと、白石城内で使用されていた鐘でしたが、明治時代になって、売却され、伝来寺で保管しています。鐘には、伝来寺で保管するに至った経緯も刻まれています。

## 白石城年表

天正 18 年	蒲生氏郷、会津 73 万石を拝領、白石城を蒲生源左衛門郷成に預ける。
文禄 4 年	上杉景勝、会津領を拝領、白石城に甘粕備後を入れる。
慶長 5 年 7 月 24 日	伊達政宗、上杉領の白石城を攻撃。
8 月 14 日	政宗、白石城を石川昭光に預ける。
7 年 12 月	片倉景綱白石城を拝領。
正保 3 年	地震のため石垣壁櫓等崩れる。
寛文 元年	破損により再鑄していた鐘が完成し、掛けられる。
元禄 5 年	坂口門東廐曲輪南之方土手土留石垣崩れる。
享保 16 年	大地震にて石垣、櫓、堀等多くの箇所が損壊。
寛保 3 年	御勘定所出火
宝暦 6 年	大烈風のため、城内の松が折れる。
文政 2 年	白石城焼失
6 年	大櫓御成就
12 年	御城巽角櫓、石垣四ヶ所完成。
弘化 元年	烈風のため城等大破。
慶応 2 年	太鼓堂東御門に移る。
明治 元年 10 月 9 日	白石城、片倉家より白川口総督府へ引き渡し。
明治 2 年 4 月 11 日	白石城を南部氏へ引き渡し。
8 月 13 日	南部旧白石藩知事が白石城へ入城。
明治 3 年 9 月 28 日	三陸磐城両羽按察府廃止、白石城は旧片倉家中開拓役所預かりとなる。
10 月 15 日	白石城売却代金を北海道開拓費用に充てるよう願い、元按察府の許可を得る。
明治 4 年 4 月	旧白石城が兵隊屯所となり、御親兵が入城、三の丸の居家を壊して調練場として洋式調練を行う。
明治 7 年	白石城を家禄奉還士族、御代田円八ら 5 名に払いさげる。
明治 33 年	東宮殿下御慶事記念として白石城址を益岡公園とすることに決定。
明治 39 年	神明社が現在地に移転。
大正 4 年	本丸跡に片倉小十郎頌徳碑建碑、神明社参道脇に片平観平翁頌徳碑建碑。
大正 6 年	公園地拡張のため城址 1 町 4 反 5 畝 7 歩を片倉男爵家より 300 年無償で借用。
昭和 38 年	白石城本丸付近の土地所有が片倉家より市に譲渡移管。
昭和 38 年	白石市営野球場落成
昭和 44 年	本丸跡整備
昭和 54 年～58 年	西側芝生広場整備
平成 7 年 5 月 3 日	復元三階櫓、大手門の一般公開開始。

今回のパンフレットの作成にあたり、  
次の個人、機関から協力を得ました。

ありがとうございました。

文化庁  
宮城県図書館  
仙台市博物館  
北日本近世城郭検討会  
延命寺  
当信寺  
耕龍寺  
伝来寺  
菅野 正道  
資料所有者

---

表紙、裏表紙は『刈田郡白石城下御絵図』(天和3年)、  
宮城県図書館蔵である。

---

白石市指定文化財 白石城跡  
一片倉小十郎の城 白石城一

平成 25 年 1 月 21 日印刷

平成 25 年 1 月 25 日発行

編集 白石市教育委員会

発行 白石市歴史文化を活用した地域活性化実行委員会

宮城県白石市字寺屋敷前 25-6

電話：0224 (22) 1343

印刷 笹氣出版印刷株式会社

仙台市若林区六丁の目西町 8-45

電話：022 (288) 5555



この印刷物はグリーン基準に適合した印刷資材を使用して、グリーン  
プリンティング認定工場が印刷した環境配慮商品です。  
用紙は責任をもって管理された森林から作られたFSC®認証紙を使用し、  
インキは環境にやさしい植物油インキを使用しています。

